

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 14日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホームうたし		
所在地	〒859-6204 長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦 986-38		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町受理日	平成26年3月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島町2丁目7217 島原商工会議所1F
訪問調査日	平成 26年 3月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

「自分らしく あるがままに」という理念を元に入居者それぞれのこれまでの生活を尊重し、家族、地域の方々、スタッフが協力し合いながら支えあい、安心して暮らせる日々を支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

入居者の基本情報に基づいて、現在までの生い立ちや人生観を感じ取った支援に心掛け、理念である「自分らしく、あるがままに」を日常の生活の中で共通の認識として職員は取り組んでいる。また、入居者が地域の中に受け入れられ、自由にのびのびと過ごせるようにホームとして地域交流に取り組まれている。成果としては、入居者が地区老人会の一員であり、地区総会に出席している。そして、地区の納涼祭り等々にも招待されるように入居者がホームの主人公となっている。毎週1回、温泉湯も宅配してもらい、ホームで温泉気分を味わってもらうような取り組みが行われ、入居者の楽しみのひとつとなっている。
--

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初からの理念を職員全員が普段の生活の中でもホーム内でも地域の中でも自然に共有しまた実践している。	入居者の基本情報を基に、生い立ちや人生観を感じ取った支援に心掛け、理念である「自分らしく、あるがままに」を日常生活の中で共通の認識として職員は取組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地区会に所属し、地区の行事、老人会等参加している。又25年度は、介護教室を開催し地域の方々に参加いただいた。	地区内(町内会)の方達の理解や協力が得られ、ホーム行事での催し物等にも地区内の方が積極的に取組んでくれている。また、入居者を地区内の一員として受け入れてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の訪問の時や運営会議等の委員さんの相談があるときは、相談に乗り支援の方法などをお話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し毎回活動報告、入居者の動静を報告し意見をいただいている。地域の情報や事業所として役割を再認識するなどサービスの向上に反映している。	職員育成の一環として、また、職員の顔を地域の方に知ってもらう、会議内容の共有等を目的として職員が交代で会議に参加している。なお、認知症サポーター等、参加メンバーからの質問などに答えるような取組みが計画されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者に運営推進会議に参加いただき、事業所の情報や、実情を伝えている。又、会議の議事録を毎回市町に対し報告している。25年度は佐世保市主催の介護教室を受託し開催した。	支所職員と管理者が顔見知りであり、協力関係や信頼関係が構築できている。また、生活保護の代理申請等の支援を縁に本所の福祉課職員との連携も図られている。	

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全てが、身体拘束について理解しており、日々のケアの中でも互いに注意をしながら取り組む努力をしている。	ホームの年間研修に位置づけ計画的に知識の向上に取り組んでいる。身体拘束をしないための対処方法を事象ごとに検討、検証して取り組むこととしており、身体拘束廃絶を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止を考える月間を設け、所内研修や外部の研修への参加で学ぶ機会を持ち、個々の認識を再度スタッフ個々の認識を高めるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加者が学べてことを職員に報告するよう努め、必要な時には活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族への説明時には、理解しやすいような言葉を選び十分に理解してもらえるように努め、理解を促している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者へは日々の生活の中で十分な観察と、さり気なく声をかけ思いを引き出すように働きかけている。ご家族へは面会の際に時間を頂き意見や要望を尋ねるようになっている。また季節ごとの便りにもその旨を記載して意見を募っている。	家族会の組成と規約の中に家族会議開催が定められており、その中で意見要望を把握する仕組みとなっている。また、家族の頻繁な面会があり、意向要望を聞く機会が多々あり、運営に反映されている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のカンファレンスの中で全職員に意見を求め協議し運営に反映させている。又日々の業務の中でも意見を出し合い反映させている。	管理者等は職員の観察や様子から声掛けをして問題解決や意見などを聞くことにしている。また、管理者が実施する年1回の職員面談が意見や提案等を汲取る機会として捉えている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>勤務時間等負担にならないように、有給を取りやすい環境を作っている。給与においても、資格手当等を設け、やりがいが出るよう努力している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフ個々が意識を持てるよう、年間の研修計画を作成し、所内研修、外部研修に参加している。又、幹部研修等も行い、人の育て方の研修も行っている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>市のグループホーム連絡協議会に加入し、交流会や研修会に参加しスタッフ間のネットワークづくりをしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に可能ならば、ご本人に当ホームへ来初して頂いたり、こちらから面会に行き、話が出る雰囲気をつくり信頼関係を築く努力をしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居までに担当者とし話し合いの場を持ち、具体的な困り事、要望等を話し合い、また、入居後も家族からの話を聴く機会をもっている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときの内容により状態に応じた他のサービス利用の説明を行い選択肢を提供し対応している。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の日常の状態を把握し、それぞれが楽しみや淋しさを共有しながら思いやり、支え合い信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	在宅時の様子などの情報を提供して頂き、又、ホーム内での日常の様子も知って頂けるよう話し合いを持ちお互い協力し合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうち、支援に努めている	利用者の希望にできるだけ添えるよう可能な限り支援している。年賀状や電話など人との関係や、外出した時には馴染みの場所に寄り添っている。又、面会時はゆっくり時間をとって頂けるようお茶菓子などを出すようにしている。	入居者の知人面会が多数あり、ホーム側の訪問しやすい雰囲気作りとお茶やお菓子の提供等で環境作りが窺える。また、行きつけの美容室店主と過ごしていただく等の支援にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の性格を考慮し、座席の位置を考えたり、一緒に活動する時間を作るなど、お互いに関わり合い支え合えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の状況に応じて支援している。要望があるときは、入院中の支援などを行っている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がかんじている事や、希望をさりげなく伺い出来る限り本人の思いに応えることができ納得して頂けるよう努めている。	入居者ごとに決められた担当者が主に、基本情報から得た生活歴等で昔話を投掛ける等、意識して思いや意向を汲取るように工夫しちる。また、得られた意向などは介護日誌に記録され、職員間で共有されている。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用されていたサービス関係者から情報収集を行い、これまでの暮らしを把握し参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの日々の生活の中で、心身状態にあった環境で、有する力を発揮し、自分のペースで1日を過ごせるように援助を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、もしも意見が出にくい場合は日常生活の中で、必要となるケアやアイデアを職員間で話し合い介護計画に反映できるように努めている。	ケアマネージャーと担当職員が話し合い、モニタリングを行い、評価に繋げている。また、モニタリング・評価と新たなアセスメントを作成し、職員全体でカンファレンスが行われ、見直しや更新も含めた、新しい介護計画書が作成されている。	ケアマネージャーと担当職員で行われるモニタリングの途中経過内容が記録されていないため、他の職員が客観的に知ることができない。モニタリング様式を検討作成し、モニタリング（達成状況も含めた）の過程がわかるような工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を24時間途切れることなく行っており、スタッフそれぞれが情報を共有し、実践と介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化に伴う要望に柔軟に対応出来るよう、支援内容や情報を把握し、提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会や地区行事にできるだけ参加し、地域との交流を図りながら気軽に声を掛け合える関係づくりをしており安全で楽しく生活できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や、家族の希望を尊重し、在宅時からのかかりつけ医を定期的に受診し、通院困難な方には月に1～2回の往診をお願いしている。受診時には入居者の現在の状況など医師に報告し、医師との話し合い適切な医療を受けられるようにしている。	介護計画書に家族による通院支援を位置づけ、かかりつけ医との関係に繋げている。また、管理者が帯同することもあり適切な医療が享受できている。なお、夜間には協力医の往診が得られる。	

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常生活の中で異常を早期発見できるよう、日頃の状態を把握し、必要な情報を看護職に相談し、連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はできるだけ医療機関へ出向き、病院関係者との情報交換や相談をして、利用者が安心して治療に専念し、早期に退院できるように、医療機関とのよい関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>受診の際、利用者の状況を主治医と話し合い、必要に応じて家族に報告、相談を行っている、事業所として出来る事を見極め、医療機関や他事業所と共同して支援に取り組んでいる。終末期に向けた第一段階として家族会を立ち上げた。今後家族の意向、意見などを聞き支援したいと考えている。</p>	<p>看取り指針が作成され、家族会の組成済みであり、今後は家族会の充足を検討している。また、協力医との連携体制が整いつつある。今後の課題として、職員の意識や知識の向上などを図るため、看取り実施事業所への訪問研修が計画されるなど、看取り介護に向け取組まれている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入所者それぞれの救急対応時のファイルや、事業所の救急時対応マニュアルを作成し対応している。又定期的に訓練を実施している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に災害時に備えた避難訓練を行い、避難場所や避難備蓄の確認を行っている。又現在地域の住民の方や家族、関係機関にお願いしSOSネットワークを構築した。</p>	<p>隣近所の住民や協力施設等々と防災協定書を結び災害、特に火事に備えている。居室入口に連絡先等を記した、外出時にも使用する名札を配し、被災退去時に着用することで退去確認もできる仕組みとなっている。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者お一人おひとりを尊重し、それぞれの状態、その時の状況やその人に合った言葉かけや対応ができるよう職員それぞれが心がけている。	人格や尊厳に配慮した取組みとして、入居者からの返事を待つ等の意思確認を行って、移乗や誘導等の行為が行われている。また、声掛けの際にも言葉遣いや敬語にも配慮した取組みが実践されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が言えるような雰囲気づくりを行い、自己決定や選択ができるよう、そして本人の意見を尊重できるよう努めている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調に合わせ、その時の思いを尊重し、自分のペースで一日を過ごすことができるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的、又は、本人希望時に理美容室に通い本人に合ったおしゃれ身だしなみができるよう支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎食準備から食事の後片づけまで一人一人の力を活かせるよう職員と利用者が一緒に台所に入り、好みも尋ね食事を楽しむ事ができるよう支援している。	献立は当日に入居者が食べたいものの意向を聞き入れ、決められている。また、食材も毎日、スーパーに行きたい希望のある入居者を伴い、買い物に行っている。食器を弁当箱に変えたりして楽しい食事が演出されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた摂取量や食事形態、嗜好などを把握し考慮している。また、水分量が確保できるよう1日の水分量を把握し飲む環境、姿勢、形態など必要に応じて支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嗽コップを所定の位置より出し入れする事で毎食後必ず口腔ケアの支援を行えるようにしている。自立されている方も声掛け見守りで出来るよう支援している。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを早期に把握し、その状況に応じて誘導声掛けを行い、トイレで排泄ができるよう支援している。	入居者の個性に応じた排泄パターンを把握しているため、タイムリーな排泄誘導となっている。夜間のみ、オムツ利用者があるが昼間はリハビリパンツで過ごすなど、現状維持に傾注した取組をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々食事や水分摂取量を考慮し、またご利用者それぞれに適したうんどうができるよう声掛け参加を促している。薬剤が必要な方は主治医に相談し、対応している。トイレ使用後は確認を行い記録している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	季節に合わせて入浴を支援している。利用者の希望やタイミングに合わせて、声掛けを促し入浴を楽しんでいただけるよう支援している。また定期的に温泉を配達してもらっている。	午前中を中心とした入浴時間の設定となっているが、入居者の希望で自由な時間が選択できる。また、失禁時などの必要に応じ、随時入浴できる体制になっている。なお、柚子風呂や菖蒲湯などの趣向も窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	帰室される場合は、室温調整等の環境整備を行い、休息、安眠できる様に支援している。また、日中に活動する時間を設け夜間良眠できるように支援し、出来る限り睡眠導入剤に頼らないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書を通院記録とともにファイルに添付し、職員全員が確認できるようにしている。内服変更時は変更内容の記録と申し送りを確実にし、状態の変化の確認に努めている		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>できる範囲で役割を持ち、張合いや喜びが持てる日々が送れるように支援している。また、一人一人の生活歴、楽しみなどを尊重し毎日が楽しく過ごせるよう心掛けている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節の花見（桜、菖蒲、コスモス等）には必ず出かけ、入居者の希望により、散歩や買い物に出かけている。又希望によっては、自宅に帰ることもある。</p>	<p>ホーム行事は同法人の別のホームと連携して催され、入居者の往来等外出の機会を設けている。また、家族と過ごす機会を積極的に働きかけることで外泊等に繋げている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理や支払いが出来る方は、職員と買い物に出かけても自分で財布を持ち支払うなど一人一人の力に応じて支援するようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙やハガキを書かれる方は必要なものを準備している。また、電話を希望されるときは、自分で会話できるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間（食堂）、玄関においては季節感を感じれる様、利用者と一緒に作った手芸品、壁飾りをし居心地良く過ごせる空間づくりを行っている。トイレ、浴室等はシンプルにしている。</p>	<p>窓から一望できる海や景色の解放感がリビングにて満喫できる。自然光や空調が適度に管理され落ち着いた雰囲気のため、入居者の生活にゆとりを持たせている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人一人が思いのまま過ごせるよう椅子・テーブル・ソファを用意し、種類、配置などの工夫をしている。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、家族にも説明をし、出来るだけ本人が使い慣れた物、好みのものを用意して頂き、安心して居心地良く生活できるよう配慮している。	使い慣れた調度品の持込みは入居者の自由となっている。家族写真やお気に入りの品物も入居者の好みに合わせ飾っておられ、それぞれ個性のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所への手すりの設置や、靴を履くためのベンチの設置など、ご利用者が安全で、また、持てる力を発揮し、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない